

# 学部長 interview



大阪市立大学文学部長  
哲学歴史学科 日本史コース教授  
仁木 宏 先生

## ～市文 History～

- 1949 法文学部文学科創設（文学部の前身）
- 1953 文学部創設
- 1954 修士課程設置
- 1955 博士課程設置
- 1968 5学科12専攻
- 1999 3学科15コースに改編
- 2001 正式名称が「大阪市立大学大学院 文学研究科・文学部」に
- 2002 文部科学省の「21世紀COEプログラム」(旧TOP30)に採択
- 2010 3学科13コース2領域（文学部）4専攻15専修（文学研究科）に改編

魅力はなんですか？

色んな学問分野が文学部という1つのまとまりのなかにあることが、市大文学部の最大の魅力だと思います。

心理学や社会学などの課程が別の学部にある大学もありますが、市大文学部には哲学、歴史学、国文学、英文学といった、いわゆる文学部によくある分野から、心理学、社会学など比較的新しい学問、さらには表現文化、言語応用といった市大文学部独自の学問分野がそろっています。教育学部ではないのに教育学まで含んでいます。

また、少人数教育であることも魅力の1つです。コースにもよりますが、毎年1人の先生が1人から5人くらいの学生の卒業論文を指導しています。先生との距離が近いので、ひとりひとりの学びに合わせたきめ細かな教育が可能になり、学問を究めようとする人にとっては大きなメリットであると思います。さらに、地理学ではフィールドワー

ク、社会学ではアンケート調査、心理学なら動物実験など、その分野ならではの学問的手法を学ぶことができます。受験生のみならず、持った「文学部」のイメージを覆す学びがきっとありますよ。

市大文学部生の印象はどうですか？

真面目、ですね。また、問題へのアプローチの仕方が異なる幅広い学問を扱っているためか、市大の他の学部と比べて、多様な学生が集まっている印象があります。

これからの社会の中で文学部の役割はなんですか？

社会に即戦力として役立つとか、即応するための学問とは違うところに文学部の特徴があると思います。急速に変化する現代社会のなかで、文学部での学問や、文学部で学生を育てることが意味があるのか、という意見もあり

ます。しかし、すぐに社会に役立つ学問ばかりで、人間社会や我々の未来が上手くいくとは限りません。

過去を知り、人間の思想や社会の根本を学ぶことによつて、物事の本質を明らかにしようとするのが文学部の学問です。百年、千年という長さで人間の未来を考えたときに生きてくるものを、文学部が生み出しているのだと思います。

文学部で昔の人の思想や歴史、人間の行動の意義、言語の成り立ちや文化、表現などを学んだみなさんが、教員・公務員になったり、企業で働くことが、日本や世界の未来にとって意味のあることなのだと思います。

市大文学部のコース選択が2回生からであることのメリットはなんですか？

市大文学部のなかには、入学当初から進みたいコースを決めていて、そのままそのコースへ入る人もいます。かと思えば、大学での学問に触れるうちに、入学当初とは興味が変わる人も、また1年かけて自分の関心を見つける人もいます。1年間学んでいくなかで

自分に合った学問領域を発見できるところが、この制度のメリットであると思っています。

どのような人に市大文学部に来てほしいですか？

色々な人に来てほしいですが、あえて言えば、物事を柔軟に考える力をつけたい人に来てほしいですね。大学の4年間では、入学までの自分のあり方も大事にする一方で、これまでの自分の殻をやぶる体験をしてほしいと思っています。そのきっかけは学問やサークル活動など何でもかまいません。

既成概念にこだわらなくて、何か今までと違う「おもしろいこと」に積極的に取り組み、次のステップに活かせることを掴んで卒業してほしいと思っています。

ありがとうございます。

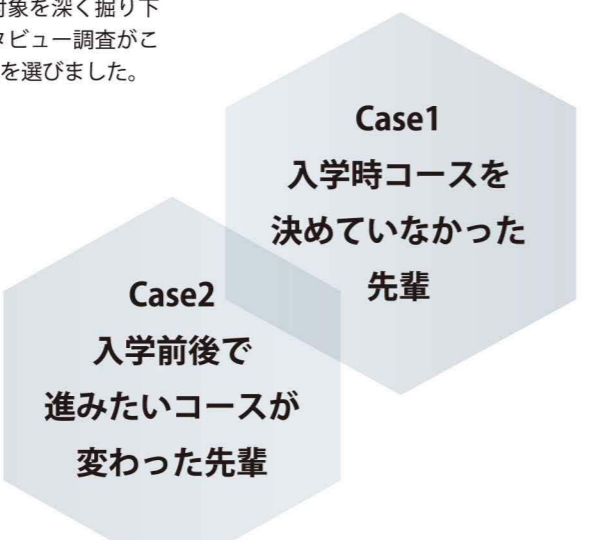
写真 インタビュー 1回生 東野 桃 1回生 安田 奈央

## Course Choice



2回生 人間行動学科 社会学コース  
行田 美希さん

大阪市立大学文学部では1年間かけて、2回生以降に所属するコースを決めることができます。先輩たちはどのようにして所属するコースを決定したのでしょうか？  
2回生の先輩2人にインタビューしてみました。



Q. 入学時はどのコースに決めていましたか？

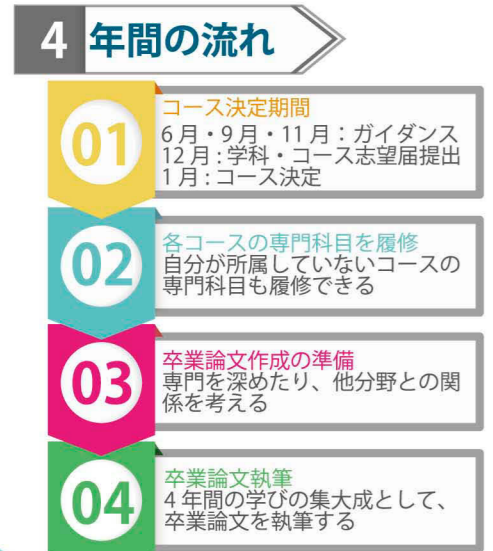
A. 日本史コースに決めていました。高校生のとき、歴史や公民の科目が好きだったからです。また、将来は社会科の教員になろうと思っていました。

Q. そこから1回生の間で、進みたいコースはどのように変わりましたか？

A. コース選択を左右したのは1回生のときに受けた授業でした。最初は入学時に決めていたコース選択が、自分の興味に合っていると思っていました。しかし、1回生向けの、各学科の入門にあたる授業を受けて他のコースでの学びにも興味を持ち、コースを迷い始めました。社会科の教員を目指していたことと関連して、教育学コースが候補としてありました。また、「コミュニティ防災」という授業を専門科目とは別で受けたことで、防災教育に興味を持ちました。教員志望だった大学入学までの自分の思いと、入学後の防災についての学びが繋がり、最終的に教育学コースを選びました。

Q. 大学で学びたいことは決まっていたか？  
A. はい、ぼんやりと決まっていた。民族衣装やお祭りを見るのが好きで、文学部では民族にかかわることを勉強したいと思っていました。とはいえ、民族の研究といっても歴史、宗教、哲学など切り口は様々で、その分コースはかなり迷いました。最後まで迷っていたのは哲学コースと社会学コースの2つでした。民族宗教について学ぶには、宗教学の先生が所属している哲学コースを選びたいと思ったからです。

Q. 社会学コースに決めたいきっかけ、決め手は？  
A. 社会学で用いる調査の手法に惹かれたことです。私は1回生の9月に北海道へ旅行に行き、アイヌ民族集落で地域住民の話を聞きました。そして人との関わりを通して物事を考えることが面白いと感じました。社会学では、アンケート調査のような研究対象のサンプルを大量に得て調査する手法を「量的調査」といいます。一方で、研究対象を深く掘り下げて調査する「質的調査」という手法があります。インタビュー調査がこれにあたりと知り、調査手法に魅力を感じた社会学コースを選びました。



2回生 人間行動学科 教育学コース  
山下 高輝さん

## 文学部・文学研究科 組織図



われわれは何者なのか？どこから来て、どこへ向かって進んでいくのか？新しい世紀を迎えて、従来の文化的・社会的伝統の克服が叫ばれています。しかし、私たち人間が歩んできた道のりがどのようなものだったのか、人間とは何者なのかを理解しなくては、私たちの未来の明確なイメージを描くことは決してできないでしょう。哲学歴史学科は、このようにいわば人間のアイデンティティーにかかわる根本的な問題について、ともに考えていくことを目指しています。

人間行動学科 情報化や国際化によって変化していく今日、心の世界、人と人とのつながり、自然との共生などへの関心が高まっています。人間行動学科では、観察・調査・実験といった科学的方法にもとづき、人間の行動、私たちの社会・環境、そして両者のかかわりについて、多様な角度から明らかにしています。各コースの学問分野を中核とし、それらを有機的に結びつけた独自のカリキュラムにより、「人と「環境」の複雑さを、様々な視点から理解できる人材の育成を目指しています。

言語文化学科 言語文化学科は、言語を通して人間にアプローチし、人間が作り上げた文化を探求します。わが国、アジア地域、欧米諸地域の文学や、思想関係の文献を読み、言語の姿や仕組みを考察します。言語と関係する文化、たとえば演劇・音楽・映画なども分析対象です。こうした作業を通じて、人々がこれまで何を考えてきたのか、現在何を考えているのか、そして今後どのような新しい考えを打ち出すのかを探ります。